

Title	巻頭言
Sub Title	
Author	松田, 隆美(Matsuda, Takami)
Publisher	慶應義塾大学デジタルメディア・コンテンツ統合研究センター
Publication year	2017
Jtitle	慶應義塾大学DMC紀要 (DMC Review Keio University). Vol.4, No.1 (2017. 3) ,p.3- 3
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO32002001-00000004-0003

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

巻頭言

松田 隆美

慶應義塾大学 DMC 研究センター所長 文学部教授

『慶應義塾大学 DMC 紀要』第 4 号をお届けいたします。本号には、2016 年秋の DMC 研究センターシンポジウム「デジタル知が広げる文化財の可能性ーデジタル知の文化的普及と深化に向けてー」における講演やパネル・ディスカッションをはじめとして、この 1 年間の活動報告、所員の研究成果などが掲載されています。DMC 研究センターが創設された目的のひとつに、慶應義塾が所蔵している様々な文化財を対象として新しいミュージアムの可能性を具体的に考えることがあります。DMC の研究の中核をなしている MoSaIC プロジェクトやキャンパス・ミュージアムも、新しいミュージアムのあり方を常に念頭において進められてきました。今年度は、3 次元的な空間とモノとしてミュージアムに DMC の活動が具体的にいかなる貢献ができるか、そしてミュージアム環境の構築に本質的に関わることで実現するデジタル・アナログ融合型のユニバーシティ・ミュージアムの姿を実際に立ち上げるべく研究を進めてきました。

2016 年度の DMC のもうひとつの大きな活動は、慶應義塾大学が 2015 年に MOOCs (Massive Open Online Courses ー大規模公開オンラインコース) の配信事業体である FutureLearn (本部: ロンドン) と協定を締結し、インターネットを通じて全世界に配信されるオンラインコース事業に参入するにあたって、コンテンツの開発母体となったことです。本年度 DMC は、日本の伝統的書物文化と現代日本のサブカルチャーをテーマとしてオンラインコースをすでに 2 本開発し、それらは FutureLearn を通じて配信され、世界中の受講者からとても良い評価を受けました。本号にはその開発に関する論文が掲載されています。

デジタル環境を介して社会とひろく繋がり、研究と教育の両面において活動の幅を広げてゆく DMC の姿が『DMC 紀要』第 4 号には記されています。